

Jan, 2024

Gender equality & Poverty reduction

Vol. 20

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター



Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

CONTENTS

-
1. 巻頭メッセージ：田中由美子さんを偲ぶ会
 2. ジェンダー平等の潮流：GBV 撤廃のための 16Days of Activism の取り組みを今年も実施しました！
 3. 貧困削減の潮流：2023 年度能力強化研修「金融包摂と貧困削減」
 4. 案件紹介：タイ 人身取引対策に関する新しい試み
 5. 各国からの報告：JICA 海外協力隊との連携を通じたジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進
in Kenya
 6. 知ってる？ 金融包摂シリーズ⑧ 金融包摂って、一体どの程度進展しているの？

巻頭メッセージ

JICA の元国際協力専門員（ジェンダーと開発）であり、その後 JICA シニア・ジェンダー・アドバイザーとして、長年、国際協力におけるジェンダー主流化を牽引してこられた田中由美子さんが 2023 年 9 月 26 日にご逝去されました。

突然の訃報に大きな喪失感と信じられない気持ちを抱えながら、私たちは 12 月 23 日、「凛としてしなやかに駆けぬけたー国際協力とジェンダー主流化のパイオニアー」と題して、田中由美子さんを偲ぶ会を田中さんが招聘教授として教鞭を取られた城西国際大学のホールをお借りして開催しました。偲ぶ会には、オンライン配信による参加を含め約 220 名が参加しました。

大沢真理東京大学名誉教授による基調講演「田中由美子さんの挑戦と成果」、そしてパネル討論「軌跡に学び、バトンをつなぐ」を通じ、国際協力の実務、学術研究、市民運動といった多様な領域での田中さんのジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進に向けたご貢献を改めて学ぶ場となりました。

JICA においては、国際協力専門員になられた 1990 年からこれまで 33 年に渡ってジェンダーの取り組みを主導されました。現在私達が携わっているジェンダー平等と女性のエンパワメントの取り組みは、田中さんが築かれた大きな土台に支えられて行われています。田中さんの急逝は、まだまだ教えを乞いたかった我々にとって大変ショックなことでしたが、その一方で、田中さんから「これからはあなたたちで頑張りなさい」と独り立ちすることを促されているかのようにも感じました。パネル討論が「バトンをつなぐ」というテーマになったのも、そのような思いが込められています。

私達は、田中さんが常に言い続けてこられた「差別や偏見のない、それぞれの人がそれぞれの人らしく個性と能力を発揮して生きていける社会の実現」に向けて、これからも JICA 内外の関係者の皆さんとともに、田中さんから渡された大きなバトンを繋いでいきます。

（宮崎桂、増田淳子、亀井温子、内川知美、溝江恵子、國武匠、久保田真紀子
（「田中由美子さんを偲ぶ会実行委員会」JICA 参加メンバー）

ジェンダー平等の潮流：

GBV 撤廃のための 16Days of Activism の取り組みを今年も実施しました！

毎年、11 月 25 日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」から 12 月 10 日の「人権デー」までは、16 Days of Activism というジェンダーに基づく暴力撤廃に向けたグローバルなキャンペーンが開催されており、ジェンダー平等・貧困削減推進室でも様々な取り組みを行っています。今年も、JICA 内部向けに地域別の「ジェンダーに基づく暴力（GBV）の課題と対策セミナー」を 2 回実施したほか、SNS での発信、本部 1 階の受付のサイネージで [GBV 啓発動画](#) の上映を行いました。

「ジェンダーに基づく暴力（GBV）の課題と対策セミナー」は、11 月 28 日に実施された第 1 回はアフリカ地域、12 月 5 日に実施された第 2 回は南アジア地域をテーマとし、関連地域の担当部署・事務所をはじめとした様々な部署から GBV に関心を持つ計 87 名がオンラインで参加しました。セミナーでは、GBV の概要、JICA の方針や取り組みについての全体像をジェンダー平等・貧困削減推進室から紹介した上で、アフリカ編、南アジア編それぞれで、GBV 撤廃に向けて現地で活動を行う長期専門家が現地における GBV の課題

と対策、取り組みの事例を発表しました。

アフリカ編では「GBV 撤廃に向けた地方行政能力推進アドバイザー」の専門家としてケニアに派遣されている久保田真紀子専門家（JICA 国際協力専門員）より、アフリカ、ケニアにおける GBV の状況について解説の上、スポーツイベントを通じた GBV 被害当事者女性のエンパワメントや、学校における GBV への取り組みである教員研修や GBV の撤廃と予防にむけて遊んで学べる人生ゲームの開発・普及、GBV の撤廃に資するビジネスの促進といった、様々なステークホルダーを巻き込んだ新たな取組が紹介されました。

南アジア編ではパキスタンへ「ジェンダーに基づく暴力被害者支援における被害者中心アプローチの促進アドバイザー」の専門家として派遣された宇佐美茉莉専門家がパキスタンにおける GBV 課題を解説し、「女性にとって家庭が一番であり、家族に守られるのが一番良い」といった支援者の規範・思い込みによって女性個人の意思が尊重されないとの課題や、それに伴い女性の自立・社会復帰支援が不足している点が指摘されました。そうした課題に対し、専門家として取り組まれた、被害者中心アプローチの普及や、保護から自立・社会復帰までの切れ目のない支援の推進のための活動を紹介の上、GBV の課題に多角的に取り組むためにマルチセクターでの協力の必要性が強調されました。

参加者からは、他地域についても同様の勉強会を開催してほしいとの声も寄せられるなど、セミナーを通して GBV に対する取り組みへの関心の高まりが感じられました。キャンペーン期間は 16 日間ですが、高まった機運をそのままに、今後も JICA 内外の様々なステークホルダーと協働し、ジェンダーに基づく暴力撤廃に向けた取り組みを加速させていきます。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 町村 美紗)

貧困削減の潮流：2023 年度能力強化研修「金融包摂と貧困削減」

10 月 3 日から 10 月 5 日まで、能力強化研修「金融包摂と貧困削減：インクルーシブビジネスの促進に向けて」をオンラインで開講しました。当研修は、金融包摂の知見を持つ人材需要の高まりを受けて、JICA 内外の人材の金融包摂に関する知識や技術の拡充を目的として、2017 年度より実施されています。

今年度も、金融や経済分析のみならず、農業開発、教育、人道支援等、多様な専門性をお持ちのコンサルタントや NGO 職員、省庁職員、JICA 専門家、JOCV を含む 29 名に参加いただきました。講義で取り上げたテーマは、「貧困削減と金融包摂のアプローチ」、「金融包摂を促進する金融サービス」、「金融包摂の国際的潮流と課題」、「金融包摂のエコシステム」、「金融包摂におけるダブルボトムライン」、「顧客中心主義アプローチ」であり、事前にオンデマンド動画で予習いただいていたため、研修中は活発なディスカッションがなされました。

さらに、最終日の演習では、[マーケットシステムアプローチ](#)を活用したケーススタディを行い、マーケットに対して大規模かつ持続的な変化を生み出す「構造的な変革 (Systemic Change)」を起こす方法について検討しました。

多様なバックグラウンドを持つ方々が、金融包摂に関する知識や技術を身に付けようとする背景には、金融包摂の Enabler としての側面があります。SDGs において、金融包摂は Goal 1 「貧困削減」の主要指標であるだけでなく、Goal 2 「飢餓撲滅」、Goal 3 「健康と保健」、Goal 5 「ジェンダー平等」、Goal 8 「経済成長」、Goal 9 「産業と技術革新」、Goal 10 「不平等・格差」等の達成を促進する役割が期待されています。

JICA においても、金融包摂を主目的とする案件のみでなく、金融包摂を金融包摂以外の分野の事業に組み込

む案件形成のニーズが高まっているため、様々な開発・社会課題の解決を目指すみなさまに金融包摂の視点を取り入れていただけるよう、今後も本研修を実施していきたいと考えております。みなさまのご参加をお待ちしております。

(ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 齋藤 有希)

案件紹介：タイ 人身取引対策に関する新しい試み

タイでは 2009 年から人身取引対策の技術協力を開始し、現在第三フェーズとなる「人身取引対策のためのメコン地域ネットワーク強化プロジェクト」を実施中です。今回は、人身取引対策におけるタイの新しい試みを 2 つご紹介します。

■「被害者」を一括りにしない支援

現在実施中の技術協力プロジェクトの活動として、2023 年 8 月 23 日～25 日に、メコン地域各国の人身取引対策関係者計 100 名をバンコクに招待し、第 11 回メコン地域ワークショップを開催しました。今年のテーマは「Gender and Social Vulnerability」です。LGBTQ や障害など、被害者の持つ二重三重の脆弱性に焦点を当てました。例えばタイにはシェルターが 8 か所ありますが、男性用と女性用に分かれているので、どちらにも属さない方は困っている、また障害者の過ごせる施設になっていない、という課題があります。そこで今回は、各国の取り組みの共有、USAID やパキスタンの宇佐美茉莉専門家さんをお招きしたパネルディスカッションを行い、多様な脆弱性に配慮した被害者保護の実践や教訓について意見交換しました。タイ以外の国からも、少数民族や児童労働の子ども達へのケアなど、国のニーズに即した様々な取り組みが紹介されました。最終日は、バンコク近郊に建設中のユニバーサルデザインを採用したシェルターに視察に行きました。人身取引の被害に遭った方を『被害者』という一つのカテゴリーに括らず、ジェンダー・障害・高齢・少数民族など多様な背景に配慮し、一人一人に寄り添った支援が実現することを願っています。

■アメリカ・オーストラリア・タイ・日本の連携強化

メコン地域では、JICA 以外にも、アメリカ・オーストラリア等のドナーが人身取引に関する広域支援をしており、近年ではタイも、ドナーとしてラオスやカンボジアにシェルターを建設するなどの活動を行っています。そこで、各ドナーの連携を強化すべく、日米豪それぞれの支援実績があるチェンライにて、4 ドナーの所長レベルをミッションメンバーとした合同視察を行いました。現地では、人身取引関係部局や NGO との意見交換、シェルターやタイ・ラオス・ミャンマーの国境地帯を訪問しました。また、その成果として、合同プレスリリースを発信し、今後もドナー間で情報交換や連携活動を促進することを約束しました。



メコン地域ワークショップの様子。各国のアクションプランも作成した。



4 ドナー合同ミッションでの人身取引被害者シェルター訪問の様子。

(タイ事務所 川合 優子)

各国からの報告：JICA 海外協力隊との連携を通じた ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進 in Kenya

ケニアにおいて、ジェンダーに基づく暴力（GBV）は深刻です。性暴力やドメスティック・バイオレンス、児童婚や早期妊娠は大きな社会課題となっています。こうした中、現在、ケニアでは、協力隊員と「GBV 撤廃に向けた地方行政能力推進プロジェクト」の連携強化を通じた取り組みが始まっています。

現在、ケニアに派遣されている隊員は約 3 分の 1 が青少年保護・更生施設や、養護施設で活動しています。GBV の被害当事者や加害者との接点がある隊員も少なくありません。そのため、2023 年 8 月には、「GBV 撤廃に向けた地方行政能力推進プロジェクト」の久保田真紀子専門家（JICA 国際協力専門員）と一緒に、隊員向けに「ジェンダー主流化」セミナーを開催しました。ここでは、隊員たちとジェンダー平等な社会変革に向

けた取り組みの重要性について意見を交換する場も持ちましたが、それぞれのセクターや分野におけるジェンダー課題について考えるととても良いきっかけとなりました。また、9月には、青少年保護分野で活動する協力隊と久保田専門家が生理の貧困に係る共同調査を開始しました。専門家の助言と、隊員活動の経験をもとに隊員と専門家が共同で調査票を作成し、これまでに隊員たちが配属先等での調査を開始しています。今後も継続して調査を実施し、その成果をもとに啓発ツールの製作や、今後のプロジェクト活動において活用していく予定です。

11月30日には、プロジェクトと協働して、青年海外協力隊4名がカジアド郡の学校でスポーツイベントを実施しました。スポーツを通じ、GBV被害の女子生徒の自己肯定感の向上やエンパワメント、仲間との連帯感を感じてもらうことを目的とするイベントです。少女たちは、サッカー、バレーボール、ポートボールといった球技を楽しみました。ここでは、来場した地域の支援者向けに、地域における生理の貧困の実態についてのアンケート調査も実施しました。

一連の協働を通じて、専門家の持つ広いネットワークと知見、経験が、協力隊の持つ柔軟性やコミュニケーション能力、草の根の活動で得た視点や任国文化への理解がうまく融合し、より深化してきていると感じています。また11月、12月に実施したジェンダーイベントでは、タンザニアから「スポーツと開発」の白石智也専門家も参加。国とセクターを超えた協働となり、地域やセクターを超えた協働の在り方についても新たな気づきのあるイベントとなりました。今後もそれぞれの特性や強みを生かして連携し、お互いにリーダーシップを発揮しあうことで、継続性があり、任国に定着できる支援を目指したいと考えています。



(ケニア事務所 渡辺 幸 (企画調査員 (ボランティア事業)))

知ってる？金融包摂シリーズ⑧ 金融包摂って、一体どの程度進展しているの？

ジェンダー平等・貧困削減推進室では、貧困層を含め開発の恩恵に預かりにくい人々の「お金のやりくり」に焦点を当てた「金融包摂」＝「全ての人々が、適切な価格で簡便に、また尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスし、利用できるようにすること」の主流化を進めています。このシリーズでは金融包摂の基礎的事項を紹介しております。

ジェンダー平等・貧困削減推進室では、貧困層を含め開発の恩恵に預かりにくい人々の「お金のやりくり」に焦点を当てた「金融包摂」＝「全ての人々が、適切な価格で簡便に、また尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスし、利用できるようにすること」の主流化を進めています。このシリーズでは金融包摂の基礎的事項を紹介しております。

世界銀行グループは、2011年から3年ごとに各国の金融包摂状況にかかる多様なデータを収集・分析し、以前にもご紹介した Findex で結果を公表しています。最新版は2022年に公開された Findex 2021 になりますが、金融包摂はどの程度進展してきたのでしょうか。

まず、世界全体では、成人人口の口座保有率（電子マネー口座含む）が2011年から2021年の10年間に51%から76%に上昇しました。そして途上国では、2017年から2021年の4年間に63%から71%と口座保有状況が急激に改善しています。また、2017年まで縮まることのなかった口座保有率のジェンダーギャップが、それまでの9%から2021年には6%と初めて減少しました。

こうした口座保有率の伸びは、途上国、特にサブサハラアフリカで携帯電話による取引を可能とした電子マネー口座開設の急増に支えられてきました。また、コロナ禍で多くの国で貧困層や女性に支援金が支給されましたが、現金給付による人と人との接触を避けるため、政府が支給対象者に銀行口座や電子マネー口座の開設を促したことも関係があります。

しかし、いまだ口座を持たない成人は14億人おり、また、口座を持っていてもほとんど利用しない休眠口座も多く存在しています。こうした状況を踏まえ、金融包摂の国際シンクタンクである [CGAP](#) では、金融包摂の進展につき、上で述べた①どの位の人が口座にアクセスできるかという金融包摂の広がり（Breadth）に加え、②どの程度頻繁に、また様々な種類の金融サービスを利用しているかという「深さ」（Depth）、さらに、③その結果、農業や保健、気候変動関連など人々が抱える様々な課題解決にどの程度役立っているかという「効能」（Utility）の三側面を検討する重要性を指摘しています。また、デジタル化の進展との関係で、セキュリティ、個人情報保護など新たな課題への対応も求められています。

[The Global Findex Database 2021](#) を活用し、ぜひ皆さんがご関心のある国や地域の金融包摂の進展状況を確認されてみてはいかがでしょうか。

（国際協力専門員 菅原 鈴香）

ジェンダー/金融包摂案件、関連広報のリンク

・ガイドンスノート「ジェンダー視点に立った COVID-19 対策の推進」

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/COVID-19.html>

・JICA 事業におけるジェンダー主流化のための手引き

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/guidance.html>

・New! 起業支援プログラムにおけるジェンダー主流化チェックリスト

https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/_icsFiles/afieldfile/2023/09/20/Checklists_for_applying_Gender_Lens_to_JICAs_entrepreneurship_support_programs_jp.pdf

終わりに

皆さま、はじめまして！2023年10月よりジェンダー平等・貧困削減推進室へ入構しました、高橋莉奈と申します。いつも本ニュースレターをご覧いただき、誠にありがとうございます。

私事ですが、先日人生で初めてガーナへ出張に行きました！生まれ持った身体の形によって、女性・男性という型にはめられ、「女性だから」という理由で、教育や経済的な自立の機会を失っている現実を目の当たりにし、ジェンダー主流化の重要性を痛感しました。これからも少しでも多くの方々がジェンダー主流化に興味を持っていただけるよう、情報発信してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します！。

本ニュースレターは、年3回程度発行しておりますが、今号はいかがでしたでしょうか。次号は春に発行予定です。読者の皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。(連絡先：gpgge@jica.go.jp)

(編集：高橋 莉奈)